

平成31年3月28日

壱岐市長 白川 博一 様

松永安左エ門記念館運営検討委員会  
委員長 松本 陽治

## 松永安左エ門記念館のあり方に関する提言書

松永安左エ門記念館運営検討委員会は、平成31年1月31日の発足以来、壱岐が生んだ最大の偉人である松永安左エ門翁の功績を、後世に語り継ぐ重要な役割を担う記念館の将来あるべき姿について議論し、検討を重ねてまいりました。

委員全員の松永翁に対する熱い思いから導き出された記念館の目指すべき将来像、そして、そのために今後取り組むべき事項等について、次のとおり提言いたします。

# 提言の柱

## 壱岐が生んだ日本の宝「松永安左エ門翁」を後世に語り継ぐこと

### 1. 基本理念

基本理念は、「松永安左エ門記念館は松永翁の人物像とその功績を島内外へ情報発信する拠点施設であること」とします。

### 2. 記念館の今後の方向性

基本理念に基づいた記念館の将来あるべき姿については、以下の事項を満たしていることが必要であることを提言します。

- (1) 松永翁の生き様や人物像、その功績について、  
時代背景や関係人物に合わせて紹介されていること。  
誰もが理解しやすい工夫がなされていること。
- (2) 定期的なイベントが開催されるなど、島内外から何度も足を運びたいような記念館であること。
- (3) 学校教育との連携がより強化され、全ての壱岐の子どもたちが記念館を訪れ、郷土の偉人について学ぶ場となっていること。

### 3. 記念館の現状の問題点

委員会では、記念館の現状の問題点を議論し、整理しました。その内容について、以下のとおり詳述します。

- (1) 時代背景やテーマに沿った展示がなされておらず、解説等の整備も不十分で、来館者へ情報が伝わりづらい。
- (2) 展示品の劣化が進んでおり、適した環境で保管されていない。
- (3) 管理人が1名体制であり、来館者への十分な対応が出来ていない。また、後継者対策もなされていない。
- (4) すべて本物の貴重な展示品が所蔵されているが、防犯体制が不十分である。
- (5) 入館料の見直しが行われておらず、管理運営に見合う収入が得られていない。
- (6) 記念館のホームページがないなど、情報発信が不十分である。
- (7) 建物や路面電車が老朽化している。

- (8) 生家の有効活用ができていない。
- (9) ふるさと資料館は、常時開館されておらず、有効活用ができていない。
- (10) 記念館前の案内看板が小さく、目立たず素通りされてしまう。

## 4.これから取り組むべき事項

委員会では、挙げられた問題点を解決し、将来あるべき方向性を満たす記念館となるためには、どのような取組を実施すべきか協議を行いました。その見解を、以下のとおりまとめましたので提言します。

### (1) 展示方法の刷新

展示の基本的な考えを市で策定し、それを基に専門家を含めて展示方法・内容をリニューアルすること。同時に、展示品の劣化を防ぐ適切な保管方法とすること。

松永翁の生涯・功績を分類し、時代背景や関係人物とともに分かり易く展示すること。

シアタールームを設置し、松永翁の人となりや功績を理解できるよう工夫を凝らすこと。

展示についての多言語化した音声ガイドの導入や解説パネルを再整備するとともに、最新のIT技術による動画や音声を活用すること。

### (2) 管理運営体制の再構築

現在の管理人1名配置から複数体制への見直しを検討されたい。現管理人の後継者の育成も急務と考える。ボランティアでの語り部育成なども研究されたい。

防犯カメラの設置など、防犯体制の強化を図ること。

リニューアルと同時に料金改定を行い、収入の確保を図ること。

### (3) 来館者を増やすための取組

定期的なイベントや企画展等を開催する一定の事業費を確保し、継続した宣伝広報活動を行うこと。小田原市の松永記念館、福岡市美術館と連携した取組も研究されたい。

ホームページを作成するとともに、SNS等の活用を図り、島内外へ向けた情報発信を行うこと。

一支国博物館等の島内の観光施設と連携して観光周遊ルートに記念館を組み込むなど、壱岐を訪れた人の多くが記念館を訪問する手法を構築すること。

人物伝の漫画化、キャラクター化など、親しみやすい情報発信手段を探求すること。

### (4) 教育機関との連携

市内の小・中・高校で郷土の偉人である松永翁を学ぶ時間を設けるなど、記念館と連携した取組を検討すること。

小学生向け、中高生向けのなどの世代別の読み物やパンフレット等を作成し、壱岐で育った子どもたちに郷土の偉人を知ってもらうよう努めること。

#### (5) 老朽化した設備の改修

ハード面よりもソフト面の充実が大切であるため、建て替え等は喫緊の課題ではないが、展示のリニューアルに合わせ、現敷地と建物が最大限活用できるよう維持補修に努めること。

中庭に展示されている路面電車は腐食が激しいため、西日本鉄道との協議を踏まえて対応されたい。

#### (6) 生家とふるさと資料館の有効活用

生家を充実させ、その歴史を分かり易く表示・説明する。また、茶会等のイベントが定期的開催されるなど、開放的な空間として有効活用を図ること。

ふるさと資料館を記念館として有効活用すること。

#### (7) その他の項目

2021年は没後50年の節目となる。この節目を目途とした展示方法等のリニューアルを図るとともに、福岡市や小田原市と連携した企画の実施などを検討されたい。

はっきりと目につくように、記念館前の案内看板を設置すること。

## 5. 終わりに

この提言には、委員全員の松永安左衛門翁に対する「尊敬の念と熱い思い」が込められています。

今後、提言内容が如何に具現化されていくのか期待しつつ、日本の経済成長の礎を築いた松永翁の人となりと偉大な功績が、子々孫々まで語り継がれることを切に願います。

## 委員会の開催状況

	開催日	協議事項
第1回委員会	2019年1月31日	・委員長および副委員長選出 ・記念館の概要説明(質疑応答含む) ・記念館現地視察
第2回委員会	2019年2月14日	・問題点等の協議事項に対する各委員の見解発表 ・提言内容の協議
第3回委員会	2019年3月6日	・提言内容の最終協議

## 委員会委員・オブザーバー

委員長 松本陽治  
 副委員長 長嶋立身  
 委員 岩永悦子  
 委員 梅田はつみ  
 委員 大熊晴樹  
 委員 堺常道  
 オブザーバー 豊島令隆

(委員にあつては五十音順)